

所沢市通級指導教室での実施支援の解明

Clarification of the effective support in the resource room in Tokorozawa city

鈴木 佑梨 (Yuuri Suzuki) 指導：熊野 宏昭

【問題と目的】

埼玉県所沢市には、「そだちとこころの教室フロー（以下：フロー）」という名称の通級指導教室が存在する。ここでは、発達障害が実行機能の障害であることに注目し、その機能を向上させるような認知トレーニングをはじめ、個人特性のアセスメントにもとづく支援が行われている。フローでの支援は、通級指導を受けた児童の認知機能の向上や学校での適応の向上にもつなげられており、これまでの複数の研究によってその効果が示されている（今井ら、2013など）。児童の適応を促進する取り組みが実施されていることが考えられるが、実際にどのような取り組みが行われているか、また、どのような特徴を持った児童が通級し、個々に対してどのように支援を決定し、実施しているかに関しては、これまでの研究では明らかにされていない。そのため、本研究では、発達障害特性を持つ児童に対して効果的な支援を実施している通級指導教室フローでの取り組みの実態を明らかにし、他の通級指導教室をはじめとした支援現場での支援の向上につながるような知見を得ることを目的とした。

【方法】

調査対象および対象者：所沢市通級指導教室フロー。本教室において、2015年4月～2017年3月末に通級していた6～12歳の男女児童49名。

測度：(1) 指導報告書データ：困難特徴指標。保護者による主訴、医師および通級支援者による診断的理解が記載。(2) 通級開始時の知能検査（WISC-IV）成績：認知発達特性指標。FSIQと4つの指標（VCI /PRI /WMI/PSI）が記載。(3) 研究1にて整理したアセスメント課題、トレーニング課題の実施意図 (4) 研究2の解析結果：児童の困難特徴・認知発達特性によって分類されたグループの特徴 (5) 各児童の指導記録：通級開始から終了までの児童に対する指導記録。実施アセスメント課題、トレーニング課題が記載。

研究1：フローでの実施支援の実態の解明

筆者が研究者として、実際の支援現場に参加し、見聞き・体験してきたことや、使用ツールを整理することによって、フローで行われている指導の概要を明らかにした。

研究2：通級指導教室に通う児童の特徴の調査

通級児童について、(1) (2) より、彼らが持つ困難さや認知発達特性の観点からクラスター分析を実施。これによって支援の前提になる児童の特徴を分類し、明らかにした。

研究3：通級児童が持つ特徴ごとの実施支援の整理と検討

(5) の記録を用いて調査。研究2で明らかになった児童の特徴分類である (4) を元に、(3) で調査されたアセスメント課題、トレーニング課題の実施について、特徴ごとに整理し、個々の特徴に基づく支援実施内容を明らかにした。なお、本研究は、早稲田大学「人を対象とする研究に対する倫理審査委員会」の承認を得て実施された (2017-112)。

ント課題、トレーニング課題の実施について、特徴ごとに整理し、個々の特徴に基づく支援実施内容を明らかにした。

なお、本研究は、早稲田大学「人を対象とする研究に対する倫理審査委員会」の承認を得て実施された (2017-112)。

【結果と考察】

本研究によって、フローでの支援方針や支援の枠組みといった全体像が明らかにされた。それとともに、児童の問題とされている行動の原因を精査するためのアセスメント課題や、焦点を絞ってその問題の改善を促進するためのトレーニング課題が数多く存在し、個々の児童の特徴に合わせて選択し、実施していることが明らかになった。研究1～3での研究結果について、考えられる児童の支援の流れとその内容を以下にまとめた (Figure1. 2)。

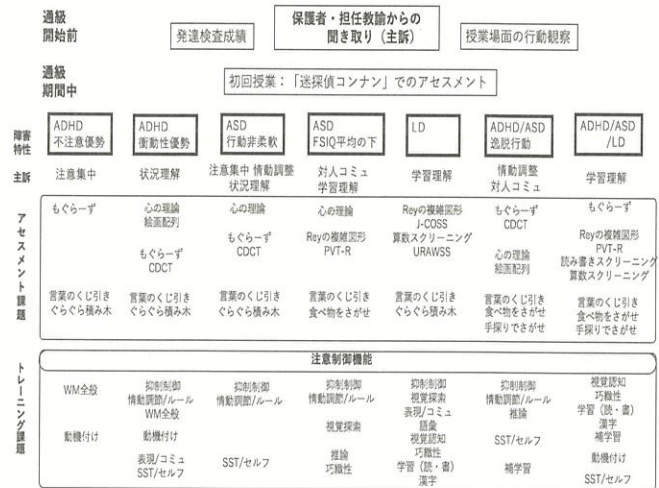


Figure 1 児童の困難特徴グループごとの実施支援

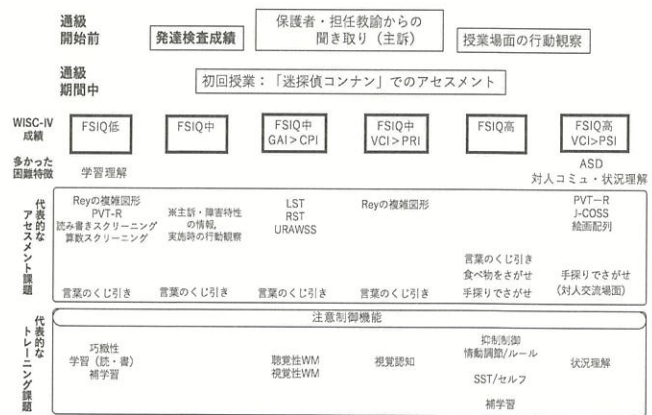


Figure 2 児童の認知発達特性グループごとの実施支援